2017 夏休みすいせん図書

～本の森へ～

中学生

西東京市図書館

「京劇がきえた日－秦淮河・一九三七－」

姚紅 作　中由美子 訳／童心社

1937年の南京。九つのあたしは、川のほとりのおばあちゃんちにあずけられていた。秋のある日、京劇のゆうめいな役者さんが、南京で公演する二か月のあいだ、おばあちゃんちにとまることになった。その役者さん、ヨウおじさんはあたしに京劇のきっぷをくれた。はじめてのげきじょう、はじめてみるおしばいはとってもすてきで、あたしはむちゅうになった。

「いい人ランキング」

吉野万理子 著／あすなろ書房

中学二年生の桃は、クラスの『いい人』ランキング第一位に選ばれますが、それはいじめの始まりでした。桃は、落ち込みながらも妹の鞠の「師匠」、尾島圭機に相談して、作戦を立てます。いじめという一見重いテーマだけど、どこかマイペースな登場人物たちに惹きつけられ、前向きになれる一冊です。

「ハルと歩いた」

西田俊也 作／徳間書店

死んだ母の故郷である奈良に、1年前父と引越してきた佐久良陽太。仲のいい友だちもできないまま小学校の卒業式をむかえ、春休みの過ごし方について、川べでぼんやり考えていると、とつぜんホームレスの男から、迷い犬のフレンチブルドッグを渡される。

陽太は、初めて飼う犬にとまどいながらも、飼い主を捜すため犬と町を歩くうち、色々な人と出会う。

「フラダン」

古内一絵 作／小峰書店

辻本穣は福島県立阿田工業高校の二年生。水泳部だったが部活で鍛えた体力を買われ、フラ愛好会に入る。そこにいたのは、九人の個性豊かなメンバーたち。最初はぎこちないステップも、練習を重ねる内に、徐々に上達していく。そして迎えた初めてのステージ。最後は失敗したが、全員で力を合わせ、拍手喝采をもらった。フラに魅了された穣たちは、「フラガールズ甲子園」で優勝を目指していく。

「車夫」

いとうみく 作／小峰書店

吉瀬走は陸上部で駅伝の関東大会を目指す高校生。だが、親が行方不明になったので、高校は中退した。そんな時、高校の陸上部ＯＢの前平さんに「車夫」という人力車をひく仕事を紹介してもらう。親方に初めて人力車に乗せられた走は、風を切って走る気持ちよさに心引かれる。走は、親方や仲間の車夫に支えられながら、浅草という街の中を、人を乗せて走るようになる。

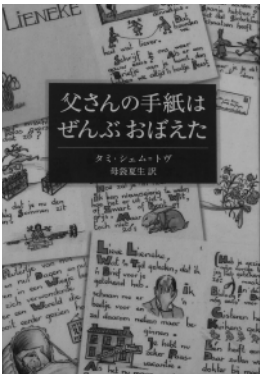
「狐霊の檻」

廣嶋玲子 作　マタジロウ 絵／小峰書店

大きな阿豪屋敷に売られてきた十二歳の少女・千代。屋敷での千代の仕事は、離れに閉じ込められている八歳くらいの美しい少女、“あぐりこ” のお世話をし、話し相手になること。実は、この少女こそ一族に富と運をもたらす、阿豪の守り神だった。人ではない彼女が九十年もの間、封印に縛られ、囚われていたことを知った千代は、彼女を逃がすために動き出す。

「父さんの手紙はぜんぶおぼえた」

タミ・シェム＝トヴ 著　母袋夏生 訳／岩波書店



ナチス・ドイツの侵攻により、オランダに住んでいたユダヤ人の少女リーネケは家族とはなれ、遠い村の医者の家にあずけられた。心の支えは、父さんからのユーモアあふれる絵入りの手紙。しかし手紙を残すのは危険なので、読み終わると処分しなくてはならない。リーネケは手紙の内容を忘れないように覚えた。奇跡的に現代まで残っていた手紙と写真が実話を伝える。

「正しい目玉焼きの作り方－きちんとした大人になるための家庭科の教科書－」

森下えみこ イラスト　毎田祥子 監修　井出杏海 監修　木村由依 監修　クライ・ムキ 監修／河出書房新社

学校の「家庭科」の授業で習ったことは、どのくらい覚えていますか。料理、洗濯、掃除…これらは生きていくのに必要で、大切なことです。苦手な分野があっても大丈夫。基本を押さえれば、きっと失敗せずにできます。毎日を楽しく気持ちよく暮らすために、自分にできそうな家事から始めてみましょう。できないと思っていたことができるようになる。自分の世界が広がりますよ。

「中学英語で日本を紹介する本」

デイビッド・セイン 著／河出書房新社

皆さんは英語が得意ですか。外国人に気軽に声をかける事ができますか。困っている外国人の手助けは、難しく感じるかもしれません。

この本では、外国人に日本を紹介する例がいくつかあげられています。浅草に行くには？トイレはどこ？鉄道の乗り換えは？

さあ、この本を読んで、レッツ・トライ！